

第6学年2組 道徳科学習指導案

令和5年7月14日(金) 2校時
 場 所 6年2組教室
 児 童 数 39名
 指 導 者

1 主題名 環境の保全 内容項目D 自然愛護

2 ねらい 環境保全活動について考える活動を通して、自然の偉大さや、自然環境の大切さに気付き、持続可能な社会の実現に努めようとする心情を育てる。

教材名 チョモランマ清掃登山隊 (出典：学研「新・みんなの道徳」)

3 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点【評価方法】
導入 7分	1 学習課題を設定する。 ・世界の豊かな自然の様子をみるとどんな気持ちになりますか？ ・酸素ボンベやロープなどを集めたごみの写真を見てどんなことを思いますか？	・落ち着く。 ・守っていきたい。 ・水とか木は自分たちの生活と関わっているな。 ・ゴミ捨て場の写真かな？ ・放置してはいけないのに…どうしてだろう。	・世界の環境のよい写真を見せることを通して、人間も自然の中で生かされていることに気付かせる。 ・本文を読む前に、教科書P45の写真を見て、思ったことを話し合う。
自然と共存するために大切なことは何だろう。			
展開 30分	2 教材「チョモランマ清掃登山隊」を読んで考え、話し合う。 ①教科書の写真をもう一度見て、感じたことを話し合う。 ②清掃登山を続ける野口さんを支えているのは、どんな思いでしょう。	・こんな状況になっているのを初めて知った。 ・日本のゴミがたくさんあるのは恥ずかしい。 ・みんな捨てているからといって、捨てていいとは思わない。 ・でも、荷物が重かったりしたらしょうがないかもしれない。 ・みんなが捨てていたら、小さなゴミぐらいならと思ってしまうかも。 ・日本やアジアのゴミが多いは、恥ずかしい。 ・大切な山からゴミをなくしたい。	・「かもっこスキル」を意識させながら発表させる。 ・本文を読んだ後で、改めて写真を確認することで、なぜこのような状態になったのかを知り、話し合いを深めさせる。 ・1960年頃の富士山の観光開発が進んだこと、当時はまだ環境問題の意識が低かったことを、一部の心無い人々によるポイ捨てが頻発する時代になったことを伝える。 ・野口さんの思いを考えることで、自然保護についての意味や行動の原動力になる思いを考えさせる。

	<p>③「自然のふところは深くない」とは、どういう意味でしょう</p> <p>④自然との共存のために、大切にしたいことは何でしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・山が好きだから。 ・清掃登山をすることで、ゴミも減るし、活動を知らせることで環境を守る人を増やしたい。 ・自然を守りたい。 ・一度壊してしまったものは、なかなか元には戻らない。 ・いつか大きな災害につながってしまう。 ・みんなが自然を守らなければならない。 <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が気を付けて、自然を守ること。 ・ゴミを少なくし、持ち帰ること。 ・自然を壊さないこと。 ・自然を汚さないようにすること。 ・環境保全の活動に参加すること。 ・エコバックなど持っていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チョモランマや富士山の例から、ゴミの放置はもう限界に達していることを知ってほしいという野口さんが思っていることを理解させる。 <p>☆環境を守ることの意義について、様々な観点から考えている。 【発言・観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって身近な自然にも目を向けさせ、ゴミ問題だけでなく、自然環境の破壊が回復不可能な状況に近づいていることについて理解させ、自分には何ができるのか、やるべきことは何かを考えさせる。 <p>☆自然との共存について、自分とのかかわりの中で考えている 【発言・記述】</p>
<p>終末 8分</p>	<p>本時を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然と共存するために大切にしたいことみんなで話し合う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換することで、自分が気付かなかったことにも目をむけさせるようにする。

4 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・自然の偉大さや自然環境を守ることについての意義について、様々な観点から多面的・多角的に考えを深めている。 (発言・表情)

【道徳的価値についての理解と自分とのかかわりで深めている様子】

- ・自然との共存について、自分とのかかわりの中で考えている。 (発言・記述)